古河電工
パワーシステムズ

# 地元マルシェに初出展

## 「電気の子ども授業」も開催

古河電工パワーシステムズ（FEPS）は11月30日、横浜市民ギャラリーあざみ野が開催する「あざみ野フェローマルシェ」に初出展した。同社の「つづく緑プロジェクト」と、横浜市民ギャラリーあざみ野と、若年性認知症介護施設GrASPの合同出展で、官民・福祉連携により、「工作ワークショップ」、「観葉植物の苗やハーブティーなどが当たるガチャガチャ」、「電気のこども授業」を実施した。

「工作ワークショップ」では、青葉区の花であるヤマザクラを取り入れ、折り紙で折った5枚の花びらを並べると立体的な一輪のヤマザクラが完成するという体験を実施。この折り紙を1枚折るとガチャガチャ用のメダルが1枚もらえる。

ガチャガチャではFEPSの自社農園で障がいのある従業員が栽培したハーブで作ったハーブティーや、プロジェクトを通じて育てた観葉植物などが当たる。

「電気のこども授業」では、技術開発本部に所属する井口智裕氏がモニターを使って、植物と電気の共通性を子ども目線で解説。植物の光合成や養分を吸収する流れを電気や電線にたとえて植物と電気の類似点を挙げ、電気が身近な存在であることを子どもたちに丁寧に伝えた。

「つづく緑プロジェクト」の創設メンバーの向原三保子氏は、「授業や工作ワークショップを通じて、子どもたちが植物や電気への感謝の気持ちを育んでもらえたらうれしい」と語った。

### つづく緑プロジェクト 植物で地域をつなぐ

「つづく緑プロジェクト」は、22年に3人の華道部員が自主的に立ち上げたもの。現在は、会社の公式プロジェクトとなり、メンバーは35人に増えた。また、事業所ごとにメンバーが活動報告する社内交流発表会を毎月実施している。

創設メンバーの高森恵氏は活動を始めたきっかけについて、「当社はインフラを支え社会貢献できているつもりでも、地域には貢献できていないと感じた。3人でできることを考えた結果、観葉植物を育てて地域の企業や団体に配ることを思いついた」と語った。

しかし、活動を開始してからしばらくの間は、社内の理解を得られるのに時間がかかったという。「当初は部活動だったので、社内からは遊んでいるだけと思われた。活動内容を社内に周知し、活動メンバーを増やしていく中で、大野和哉社長からも是非続けてほしいと活動を後押しされた」と高森氏は振り返った。

創設メンバーの木原三愛子氏は「当社でもともと育てていたアルテシマの枝を分けて一緒に水耕栽培を行う活動をGrASPさんと行ったことが印象に残っている。同じ植物が別々の場所で共に成長することで、地域とのつながりを実感できた」と語った。

今後の活動予定について高森氏は「今年、横浜市のSDGs認証制度『Y-SDGs』を取得した。他に認証を取得している企業と連携したい。今回の官民・福祉連携に加えて、今後は企業連携により横浜市を盛り上げたい。古河グループ内では、古河電工の平塚事業所や、古河エレコムにもアルテシマの苗を配って共に育てている。『つづく緑プロジェクト』の活動で、当社の事業内容などを知ってもらうきっかけになれば」と語った。

「あざみ野フェローマルシェ」は、多くの親子連れでにぎわい、来場者は100人を超えた。

電気の子ども授業

ヤマザクラを作る子どもたち